２０１０．１２.１

にゅーすれたーNO.４

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による
広域連携型学士力向上プログラム

れ　ん　け　い

大学のさまざまな「資産」を活用し、「地元に貢献する」大学づくりをすすめます！！

目次:

市町村議員講座　2

タイムマネジメント研修　2

工場訪問シリーズ　2

スピーチコンテスト in いわき　3

いわき子ども じゃんがら　3

テレビ会議システムの説明会　3

やきとりじいさん体操　4

ブリッジデザインコンテスト

ものづくりプラントキャンパスプログラム

県内中学生が熱戦を繰り広げる！

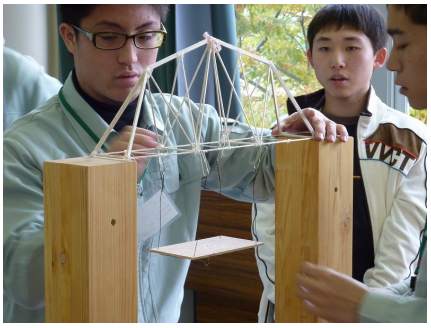
平成22年11月６日（土）福島工業高等専門学校を会場に「福島県中学生ブリッジデザインコンテスト」が開催されました。

参加中学生31名はこれまで10月２日（土）と10月24日（日）に事前の講習会を受講し、福島工業高等専門学校の根岸嘉和教授から「構造の形と強さ」について学びました。

さらに、学んだことを基に高専の学生のアドバイスを受けながら試行錯誤しながらブリッジを製作しました。

そして、本番のコンテストでは、部材（バルサ材）の使用量、開口部（実際の橋でいう車両等の入口部）断面積及び強度を評価基準として熱戦が繰り広げられました。

優勝者の遠藤健悟君（楢葉中3年）は、2位以下の作品を圧倒する驚異の19Kgの荷重に耐えるブリッジを製作し、会場の観覧者を驚かせました。また、惜しくも入賞を逃し「来年は優勝したい」と語る1年生も居り、大変充実した企画となりました。



自己評価委員会開催

平成22年度　中間評価

11月26日福島大学において、戦略的大学連携支援プログラムによる12事業などの活動について自己評価委員会が開催されました。

この自己評価委員会は、ACF規約第22条に基づくもので事業等の実施状況について自ら点検及び評価を行い、公表するとされています。委員は次の方々で事業推進会議から岩瀬委員（会津大学理事）石田委員（福島学院大理事）の2名と企画運営委員会から三瓶委員（桜の聖母短大）森本委員（福島大）の2名で計4名で構成されています。

自己評価委員会での主な意見等は次のとおりで

・評価の視点として、「連携があるからできた」という視点が大事である。「お金（財源）」があるからできたでなく、「『お金（財源）』＋連携」でできたということ。金があっても連携がなければできない事業であるという考えを示していく必要がある。

・「何をやった」「何かをつくった」だけでは評価されない。これをどのように活かす・活かすことができるの視点で評価する必要がある。

・全体計画のどの部分の事業か分かるような記述が必要である。

・表現（記述）するかどうかは別として、coverage（例　参加数/全学生・対象学生数）をデータとして準備すべきである。などの意見がありました。

れ ん け い

県南地方の市町村議員の皆さんが参加！！

生涯学習プログラム

講師の岡田麻紀氏

聴講する議員さん

「地方財政と焼き鳥爺さん！」～市町村議員講座

大学がもつ知的資源を活かし地域連携・社会貢献を目指す「生涯学習プログラム」の市町村議員講座が、県南地方の議員を対象とし、11月11日に白河市東文化センターで開催されました。

白河市や町村からの113名の議員の外、市町村職員・県地方振興局職員27名、計140名の参加がありました。

講師には、福島大学の清水修二副学長と桜の聖母短期大学の岡田麻紀講師が担当しました。講師は連携参加校の複数の大学からということを踏まえお願いしました。

清水氏は、「地域主権時代の地方財政」を「忘れっぽい日本人」論を交え、「小泉首相の三位一体論」の結末を解説、行政と住民の「協働」論、ポピュリズムの強い流れや議会と首長の二元代表制の見直し論議などを紹介しながら考えを教示されました。

「**やきとりじいさん体操**」の考案者で会津の柳津町と協同で「うとちゃん体操」を進めている岡田氏は、「健康と運動」について解説した後、参加者全員による「やきとりじいさん体操」を屋外に出て実践指導され、日頃、運動不足の議員さんも、「焼き鳥」になる過程を動きにした体操のリズムに乗ろうと歓声をあげていた。

昨年度の南相馬地方での講座に続く、「硬軟の講座」（参加議員の言葉）は今回も高い評価を得ました。

講師の清水修二氏

タイムマネジメント研修

SD合同研修プログラム

講師の釋左枝氏

研修会場全景

福島高専を会場に開催　！！

時間を効率的に使うということは、案外難しいものです。やらなければならないことが多いと、その段取りを考えている間に時間を浪費してしまう、ということもあるのではないでしょうか。

そうした時間とのつきあい方のスキルアップを狙った「タイムマネジメント研修」が、SD合同研修プログラムの事業として11月15日に福島高専で開催されました。

今回は講師として株式会社インソースの釋左枝氏を招き、福島県内の高等教育機関に在籍する24名の事務系職員が参加しました。

研修では、講師による講義と、グループワークの報告によって会場内で情報を共有する演習方式によって進められ、３時間半の研修はたいへん密度が高いものとなりました。

タイムマネジメントとは、業務のマネジメントとも直結するテーマです。研修の成果が参加者の業務に早速活かされるのかどうかは、今年度の業務の総決算となるこれからの時期に確かめられるのかもしれません。

工場訪問シリーズ（郡山地区）

ものづくりプラントキャンパスプログラム

質問する参加学生

担当者の説明に聞き入る参加者の皆さん

東北アンリツ株式会社訪問

平成22年11月12日（金）郡山市の東北アンリツ株式会社を連携校の学生25名が訪問しました。

東北アンリツ株式会社は、学生にとって身近な存在である携帯電話の検査機器を製造している企業であり、携帯電話の製造の際に欠かせないことなどを担当者から説明を受けました。

会社概要の説明後に施設を見学し、その後質疑応答の際には、日本大学工学部ＯＢが出席し、先輩からの貴重なアドバイスをいただき、また企業で活躍する姿を拝見することができ、参加学生にとって今後の就職活動にも役立つ内容となりました。

訪問した企業正面玄関で記念写真

外国人留学生と日本人学生がいわきで弁論大会　国際化プログラム

「ふくしま国際交流スピーチコンテスト2010inいわき」！

11月27日に東日本国際大学で開催

第一部のスピーチコンテストでは、福島大学、会津大学、日本大学、東日本国際大学、桜の聖母短期大学に在籍する留学生と日本人学生の14名が、「私の感じたカルチャーショック」という共通のテーマに基づき、それぞれの経験をスピーチしました。日本人のこういう心配りに救われた、あるいは日本のこういう風習は間違っている、という国民性や地域性、文化の比較のみならず、具体的にどのようなことで苦労したのか、あるいはどこにカルチャーショックを感じたのかという話題の広がりがあり、たいへん興味深いスピーチが展開されました。中には会場からの喝采を受けたスピーチもありました。

第二部は、地元の小玉郷土芸能クラブに在籍する小学生による“子どもじゃんがら”で、留学生にも実際に鉦（かね）や太鼓を持ってもらい、実際に小学生からそれらの道具の使い方を教わりながら、一緒にじゃんがらを体験してもらいました。

鉦にしても太鼓にしても、じゃんがらの独特なリズムに合わせて叩くことは、**なかなか**難しい様子でした。また、小学生たちにとっても外国人留学生との正味３０分※

優勝のアビジートさん

準優勝のミイイチョさん

準優勝･優勝･3位

いわき子どもじゃんがらで留学生の異文化交流　！！

※程度の交流とはなりましたが、終わる頃には心を一つにして、じゃんがらを踊ることができるようになりました。このような段取りで行われた今回のスピーチコンテストですが、優勝したのは「インド人の私が感じたカルチャーショック」という論題で、日本人の生活のぜいたくさ、コンビニでの成人向け雑誌の販売方法、プライバシーと隣人への無関心などをテーマにスピーチをした会津大学大学院のコンピュータ理工学研究科博士課程２年のアビジート・ラワンカルさんでした。準優勝は東日本国際大学福祉環境学部のミイイチョさん、第３位は同じく東日本国際大学留学生別科の張昊さんとなりました。

今回のスピーチコンテストの結果は、年度内に刊行予定の「ふくしまの留学生と国際交流2010」に掲載する方向で調整をしています。発刊されましたら、こちらも併せてご覧ください。

【アンケートから】今の国際情勢とは、対照的に留学生が交流する姿は大変ほほえましく思いました。参加してよかった。・・・・

熱心に練習中

さあ！！ご一緒に！！

テレビ会議システムの活用を！！

11月29日午前11時から、4月より運用しているテレビ会議システムについての操作説明会が開催されました。

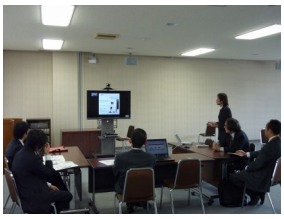
説明会は2回目で、日頃、各大学でテレビ会議システムの担当ということでシステムにかかわっていただいてる皆さんに対して、運用後半年を経過した時点で改めて操作について、学んでいただきました。

説明会では、ベンダーであるネットワンシステムズ（株）とプリンストンテクノロジー（株）からシステム担当の方があたり、最初のシステムの立ち上げ方や付属のリモコンによる操作方法さらにはパソコンを活用したプレゼンの方法など学びました。当然テレビ会議システムを使っての説明会でした。

右のディスプレイに映っているのは、説明会に参加された各大学・高専の皆さんです。

【テレビ会議を活用するメリット】
ある大学で会議が開催されれば、関係者がその場に出張しなければなりません。しかしテレビ会議で行えば、旅費や時間コストが削減されることになります。などなど、多くのメリットがあります。

ご利用の際は、各大学担当者までご一報ください。


福島大学大会議室

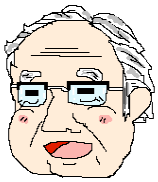
パワーポイント資料なども
提示できます

http://u-renkei.net.fukushima-u.ac.jp

地域のにぎわいは地域に根ざした人づくりから

現場を見ない「事業仕分け」

企画運営委員長　清水修二



民主党政権が組んだ予算を民主党の議員が処断するという、奇妙な恰好になっている「事業仕分け」で、戦略的大学連携支援プログラムは「廃止」の判定を下されました。「通常業務として行われるべきであり補助金でやる意義がない」ということのようですが、通常業務の予算をどんどん削っているときに、そういうことを言われても困ります。

財政学をやっている私の目からみて、今回の連携プログラムは国庫補助事業として満更でもない効果をもたらしていると思います。とりわけ福島県でいえば大学連携という発想は新鮮で、これまでお互いの存在を意識したこともないような大学同士が同じテーブルに就いて事業に取り組むことで、確実に新しい何かが生まれていると言えます。そういう現場の実感が、外にいる行政刷新会議（ないし財務省）のメンバーには読み取れないのでしょう。

事業仕分けで廃止とされたからといって、ただちに来年度予算がゼロになるわけではありません。３年度計画でやっている仕事の予算をいきなり断ち切られたら現場はたまりませんから、何らかの経過措置は当然とられなければなりません。「何とかしてほしい」という声が全国の大学コンソーシアムから上がっていますし、地方自治体も政府への働きかけを始めていると聞いています。政権の混乱の余波で現場が引っ掻きまわされるのは、ぜひとも避けたい事態です。

やきとりじいさん体操　　考案者　桜の聖母短大　岡田先生

この体操は、ユニークな振り付けと曲が特徴で、福島発の健康体操として、インターネットの動画投稿サイト「ユーチューブ」の２００８年度動画大賞「ハウツー・科学と技術」部門で大賞を受賞したものです。

この体操の考案者は、今回の大学間連携事業を一緒に取り組んでいる桜の聖母短期大学の講師である岡田麻紀先生です。

また、楽曲の「やきとりじいさん」（作詞作曲・もりたかし）は福島市の焼き鳥を全国にＰＲするために作られたキャンペーンソングで、それを耳にした岡田先生は、『これしかない』と直感し、振り付けもスムーズに出来上がったとのことです。

体操では、鳥の羽ばたきや焼き鳥をイメージした動作を体全体で表現し、普段あまり使っていない筋肉を動かすことで血液の循環がよくなり、新陳代謝が促進されるそうです。

興味のある方、ダイエット中の方、メタボな方、インターネット動画サイトでぜひともご覧ください。

写真は、１１月１１日白河市東文化センターで行われた市町村議員講座でのひとコマです。日頃の運動不足の議員さんたちも大胆なポーズの連続で、照れ笑いしながらも、結構楽しんで参加されていました。

アカデミア・コンソーシアムふくしま

国立大学法人
福島大学
Fukushima University

福島大学
大学連携センター

編集・発行
大学連携センター
TEL.024-548-5295
福島市金谷川1